

## 特別展 発掘された日本列島2004 新発見考古速報展

2005年(平成17) 1月16日(日)～2月20日(日)  
午前10時から午後5時 (入館は午後4時30分まで)  
休館日 毎週月曜日 ただし1月17日(月)は開館

### ※会場の神戸市立博物館の所在・交通

### ★展示内容

この展覧会は、最近注目をあびた全国の遺跡の出土品を紹介する「**中核展示**」と、この10年間の阪神・淡路地方における遺跡発掘を紹介する「**地域展示**」から構成されています。

#### 中核展示の内容

- (中核展示)
- ☆主 催 文化庁・神戸市立博物館
  - ☆共 催 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会  
全国埋蔵文化財法人連絡協議会
  - ☆特別協力 朝日新聞社
  - ☆協 力 インターネットミュージアム事務局
  - ☆後 援 NHK
  - ☆協 賛 (株)ジャパン通信情報センター  
(株)東都文化財保存研究所
  - ☆賛 助 (株)都市総合計画・(株)京都科学  
(株)キャドセンター・(株)空間文化開発機構  
国際航業(株)・システム提案(株)  
(株)シン技術コンサル・(株)パスコ(株)  
プレック研究所(株)・文化財保存計画協会  
鹿島建設(株)

#### 地域展示の内容

- (地域展示)
- ☆主 催 神戸市立博物館・兵庫県教育委員会  
神戸市教育委員会
  - ☆共 催 尼崎市教育委員会・西宮市教育委員会  
芦屋市教育委員会・伊丹市教育委員会  
川西市教育委員会・明石市教育委員会  
津名町教育委員会・北淡町教育委員会  
津名郡町村会
  - ☆後 援 神戸新聞社・NHK神戸放送局・朝日新聞社

### ★関連事業

#### (1)記念講演会「震災後の遺跡調査と新たなまちづくり」

坂井秀弥氏(文化庁主任調査官)

平成17年1月16日(日) 午後2時～3時30分

会場:神戸市立博物館 地階講堂

定員180名 事前申込み不要 ただし、入館券が必要

#### (2)シンポジウム「震災が明らかにした歴史」

和田晴吾氏(立命館大学教授)・櫃本誠一氏(大手前大学教授)

禰宜田佳男氏(文化庁記念物課)

平成17年1月29日(土) 午後1時～4時

会場:神戸市立博物館地階講堂

定員180名 事前申込み不要 ただし入館券が必要

### (3)子ども考古チャレンジプラザ

会期中の土・日・祝に開催 午後2時～3時

プログラム：古代のブレスレットを織ってみよう 1/16(日)・1/30(日)・2/12(土)

古代の音色-土笛を作ってみよう 1/22(土)・2/5(土)・2/13(日)

古代アクセサリーを作ってみよう 1/23(日)・2/6(日)・2/19(土)

オリジナルはんこ-篆刻してみよう 1/29(土)・2/11(金)・2/20(日)

会場:神戸市立博物館 1階学習室

定員各回30名 小・中学生対象 事前申込不要 当日の参加申し込みになります(先着順)。

### (4)ジュニアミュージアム講座(2004年度後期) 土の中からのメッセージ

特別展の展示品にちなんだ「物」を学び、「物」に近い作品作りを行う。

A.ご先祖様がうつるかも・・・金属鏡づくり

平成17年1月22日(土)午後1時30分～3時30分

B.古代の音色にふれる・・・木製弥生琴づくり

平成17年2月5日(土)午後1時30分～3時30分

C.いったい何が買えたのかな・・・古代銭づくり

平成17年2月19日(土)午後1時30分～3時30分

会場:神戸市立博物館 地階 考古学習室

定員各回20名 小学5・6年生～中学生対象

各回材料費500円

申込み方法 往復はがきにて(住所・氏名・希望講座名等)応募多数の場合抽選あり

締切：Aについては1月20日(木)必着 BとCについては1月28日必着

### ★入館料 (中核展示・地域展示・ギャラリー・常設展示を合わせてご覧いただけます。)

	当日券	団体券(30名以上)
一般	600円	450円
高校・大学生	400円	300円
小・中学生	250円	150円
※シルバー	300円	---

※シルバーは65歳以上で、神戸市すこやか手帳持参の方

○障がい者の方は無料

○神戸市及び近隣6市2町、淡路1市10町、鳴門市、徳島市の小・中学生は、学校休業日には、「のびのびパスポート」の提示により無料

(近隣6市2町とは、明石市・西宮市・芦屋市・宝塚市・三田市・三木市・稲美町・吉川町。淡路1市10町とは洲本市、津名町、淡路町、北淡町、一宮町、五色町、東浦町、緑町、西淡町、三原町、南淡町。)

### ★同時開催

2019/8/1

神戸市立博物館：発掘された日本列島2004 新発見考古速報展

## ギャラリー -震災の記憶- 西田真人作品展

平成 17(2005)年1月16日(日)～3月3日(木)

西田氏は、神戸出身。神戸を拠点に作家活動を展開され、とりわけ震災前後の神戸を描いた作品で知られています。

震災10年を記念する作品展。

## 特別展 発掘された日本列島2004 新発見考古速報展

| 会期・入館料・関連事業など | ▼中核展示の内容 | 地域展示の内容 |

### 中核展の内容

日本列島には、約44万カ所の遺跡が知られており、年間約8000件の発掘調査が行われています。その成果が新聞、テレビなどで話題になることも少なくありません。地元での現地説明会や速報展などが開催されますが、残念ながらそれらに触れる機会は大変限られています。そこで最近注目をあびた全国の遺跡の出土品から、各時代や地域を代表する遺跡の優品をえらび、全国35遺跡、約800点の遺物やパネルを展示します。「発掘された日本列島」展は1995年から毎年各地で開催されてきました。今回で10回目の記念の開催となりますので、テーマ展示「あの遺跡の今」として、これまでに展示した346遺跡の中から各時代1遺跡をえらび、その展示品や遺跡の現況などもあわせて紹介します。



旧石器時代 岩手県早坂平（はやさかたい）遺跡 後期旧石器時代中葉 約22,000～23,000年前

早坂平遺跡は、石刃が大量生産された石器製作工房跡です。ナイフ形石器・搔器(そうぎ)・彫搔器(ちょうそうぎ)・石核など多数が出土しました。(写真：(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター提供)

縄文時代

青森県是川中居（これかわなかい）遺跡

縄文時代晩期前葉 約3,000年前

低湿地から土器のほかに多数の木製品が出土しました。代表的なものとしてヤス3点と弓・掘り棒がひとまとめにくられたものや、赤漆塗りの木製鉢や漆塗りの土器などがあります。当時の工芸技術や生活用具の実情を知る貴重な資料です。(写真：八戸市教育委員会提供)



古墳時代 群馬県中原II遺跡1号墳 古墳時代後期後半 約1,500年前



周溝(しゅうこう)を含めた直径約31mの三段築成(ちくせい)の円墳で、古墳の斜面は葺石(ふぎいし)と呼ばれる石で覆われていました。武器・武具、人物、馬などの多種の形象埴輪(けいし)ょうはにわ)や円筒埴輪などが出土しました。(写真：吉井町教育委員会提供)

弥生時代 福岡県安徳台(あんとくだい)遺跡  
 弥生時代中期後葉 約2,100年前  
 中国の史書にみられる「奴国(なこく)」と推定される集落と甕棺墓群(かめかんぼぐん)からなる遺跡です。今回展示される甕棺も首長クラスの墓と考えられています。ガラス製勾玉(まがたま)3点・ガラス製管玉約340点・鉄剣・鉄戈(てっか)各1点・貝釧(かいくしろ)43点などの副葬品が出土しました。(写真：那珂川町教育委員会提供)



古代 宮城県市川橋遺跡  
 奈良時代末～平安時代前期 約1,200年前  
 東北地方経営の拠点である鎮守府(ちんじゅふ)が置かれた多賀城(たがじょう)の眼下に展開した、東西・南北の幹線道路を基準にして区画された古代都市遺跡です。壺鐙(つぼあぶみ)・帯金具・挽物(ひきもの)・曲物(まげもの)・下駄・まじないに使われたと考えられる墨書(ぼくしょ)人面土器など、さまざまな出土遺物から古代に多賀城で営まれた人々の生活を想像させてくれます。(写真：多賀城市教育委員会提供)



中世 新潟県東原町遺跡 南北朝時代 約650年前  
 遺跡は新潟県のほぼ中央部、日本海に面する柏崎平野の北側にあります。中世の溝で区画された集落跡と水田が発見され、壺に入れられた備蓄銭などが検出されました。壺は14世紀前半に作られたもので、備蓄銭と共に集落を守るまじないとして埋められたか、日本海貿易を営んでいた荘園の備蓄銭であるなどの可能性が考えられています。(写真：新潟県教育庁提供)

近世 大阪府大坂城跡 江戸時代初期 約390年前

大坂城は豊臣秀吉が築造し、豊臣氏滅亡とともに姿を消しました。現在の大坂城の姿は、徳川氏によって再建されたものに基づいています。大坂冬の陣後、大規模で組織的な作業工程によって埋め戻されたことが解明されました。調査で出土した金箔瓦・銭などさまざまな資料を紹介します。（写真：(財)大阪府文化財センター提供）



10周年特集・あの遺跡の今

弥生時代 鳥取県青谷上寺地（あおやかみじち）遺跡

00年・02年展示 弥生時代中期 約2,000年前

農耕、漁撈、狩猟の生業作業に関わる道具類、高度な技術がうかがえる木製品、動物の線刻を施した琴、まじないを行った骨など多種多様な出土遺物から当時の人々の生活の様子がうかがわれます。（写真：鳥取県埋蔵文化財センター提供）

★この展覧会の会期・入館料・関連事業はこちら→→

★この展覧会の地域展示の内容はこちら→→

震災10年 神戸からの発信

## 地域展示「震災から10周年 発信する地域文化」

まもなく、阪神・淡路大震災から10年目の年を迎えます。この地震は神戸、阪神、淡路、明石などに大きな被害をもたらしました。復旧・復興をめざし、住宅建設や区画整理など様々な事業が進められてきました。震災が発生した地域は、多くの人々が幾世代にもわたって生活を営んできたところです。その痕跡(こんせき)は埋蔵文化財として現代まで伝えられてきています。本展では、この10年の間に被災地で行われた発掘調査によって「何が明らかになったか」という視点で、成果をまとめました。地域の歴史はどのように書き換えられたのか、出土した遺物を通して紹介します。

### ★構成と主な出品資料

- I 歴史は書き換えられる
- II 埋もれた弥生のムラ
- III 前方後円墳の時代
- IV 海のかげはし
- V 古代国家の実像にせまる
- VI 瀬戸内をめぐる中世的世界
- VII よみがえる近世都市の暮らし
- VIII 発信する地域文化



《柱根(ちゅうこん)》 武庫荘(むこのしょう) 遺跡、尼崎市武庫之庄

平成8年の共同住宅建設に伴う発掘調査で弥生時代中期の大型掘立柱建物が見つかり、弥生時代の拠点集落として一躍脚光をあげました。建物は独立棟持柱(どくりつむなもちばしら)をもち、桁行4間以上、梁行1間で、柱には直径約50cm、棟持柱には直径約80cmのヒノキが使われていました。今回展示される特に保存状態の良い柱根は、紀元前245年頃に伐採された木であることが年輪年代法(ねんりんねんだいほう)によって明らかになり、弥生時代の実年代を考える上で貴重な発見となりました。(写真: 尼崎市教育委員会提供)

《腕輪型石製品》 白水瓢塚(しらみずひさごつか) 古墳、神戸市西区伊川谷町

白水瓢塚古墳は、昭和61年以降、10次の確認調査が実施されています。平成15年には、盗掘による被害状況の調査と遺物の保全を目的として後円部の埋葬施設を調査しました。その結果、粘土槲(ねんどかく)におおわれた割竹形木棺が残っていました。棺内からは、緑色凝灰岩製の腕輪形石製品の車輪石(しゃりんせき)4点・石釧(いしくしろ)9点をはじめ、画文帯神獸鏡(がもんたいしんじゅうきょう)1面、管玉(くだたま)40点、多量のガラス玉などが見つかり、明石川流域で最古の前方後円墳であることが確定しました。(写真：神戸市教育委員会提供)



《銅鉢 (どうわん)》 上沢 (かみさわ) 遺跡、神戸市兵庫区上沢通

平成10年に上沢地区の防災公園建設に伴って発掘調査が実施され、奈良時代の井戸など多くの遺構が発見されました。井戸は、5~7cmの厚さの板材を箱形に組み上げる井籠組(せいろぐみ)と呼ばれる構造で、深さは約4mあります。井戸のなかから、奈良時代の土器とともに金属製品・木製品・獣骨・植物の種子などが出土しました。なかでも銅鉢は、法隆寺や正倉院に伝わる品と非常によく似たものです。(写真：神戸市教育委員会提供)



《井戸枠に転用された船》 二葉町遺跡、神戸市長田区二葉町6丁目

新長田駅前の再開発事業に伴って発掘調査が実施され、平安時代末から鎌倉時代初めの集落が発見されました。平成10年度に、二葉町6丁目でみつかった井戸枠は、縦割りにして削り抜いた大きな丸太を埋めたものでした。この丸太には、井戸枠としては必要のない加工や、釘を打ち込んだ跡がみられることから、もともと中世の「準構造船(じゅんこうぞうせん)」と呼ばれる船の材料を転用したことが分かりました。(写真：神戸市教育委員会提供)



《経筒 (きょうづつ)》 勝雄経塚 (かつおきょうづか)、神戸市北区淡河町勝雄

平成7年に山陽自動車道建設に伴う発掘調査で発見された、室町時代の経塚です。山の上に埋められた備前焼の壺の中に、金銅製の経筒が納められ、中には法華経8巻が残っていました。金色に輝く経筒には、「享禄(きょうろく)三年」(1530年)の年号と、「播州住良円」という人名が記されています。法華経信仰を広め諸国をめぐる六十六部聖(ろくじゅうろくぶひ





じり)が埋めたものです。内部の経巻が完全な形で残っていた、全国唯一の出土品です。(写真：兵庫県教育委員会提供)